

VII 提言

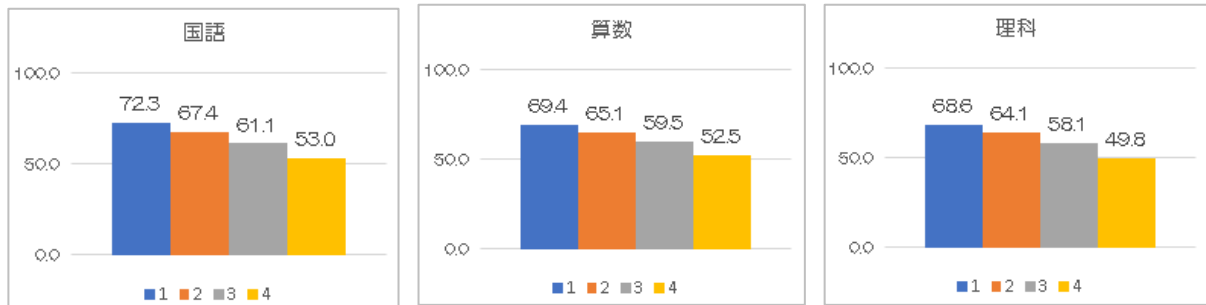
1 質問紙調査の分析から

児童生徒質問紙と学力のクロス分析

【小学校】

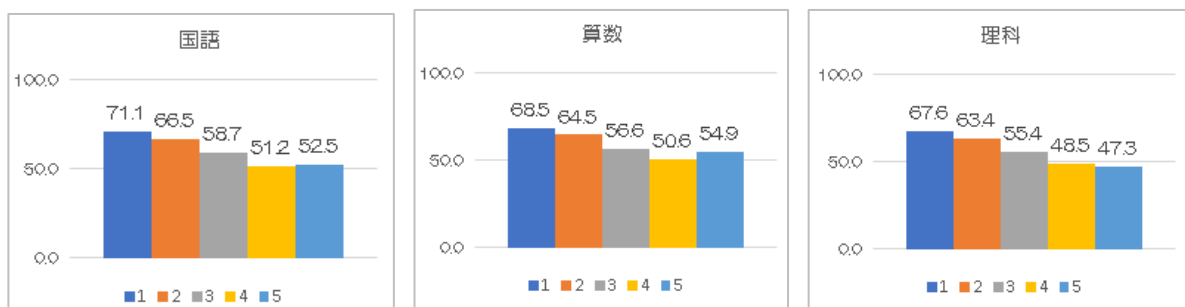
○以下と回答している児童ほど、国語、算数、理科ともに正答率が高い傾向が見られた。

Q40：5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

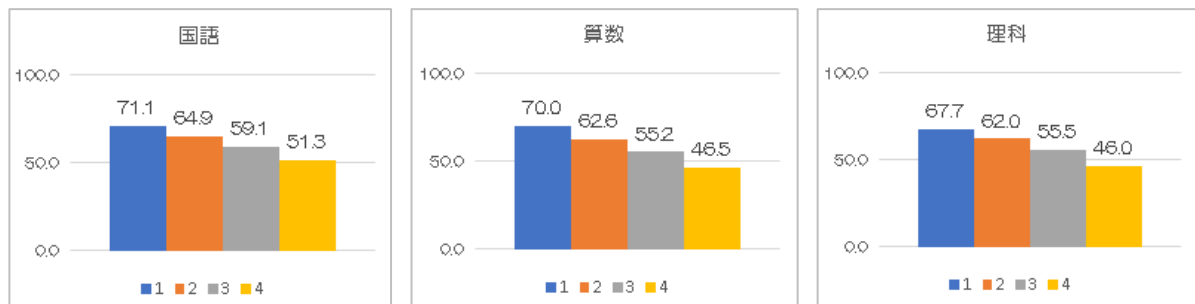
Q43：学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない

4 当てはまらない / 5 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

Q58：算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

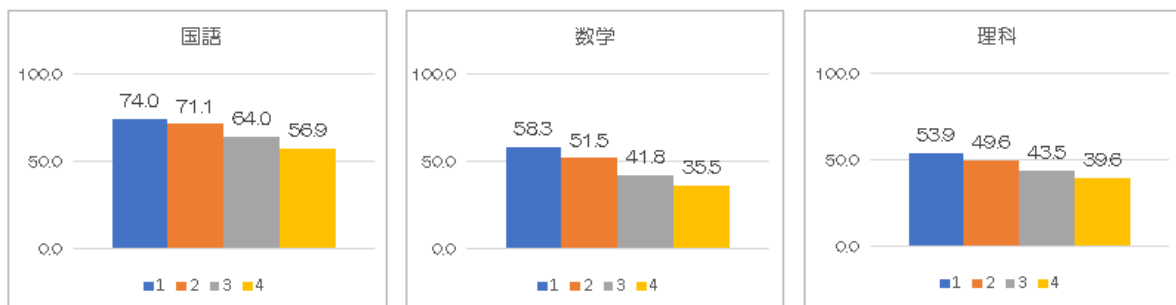


1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

【中学校】

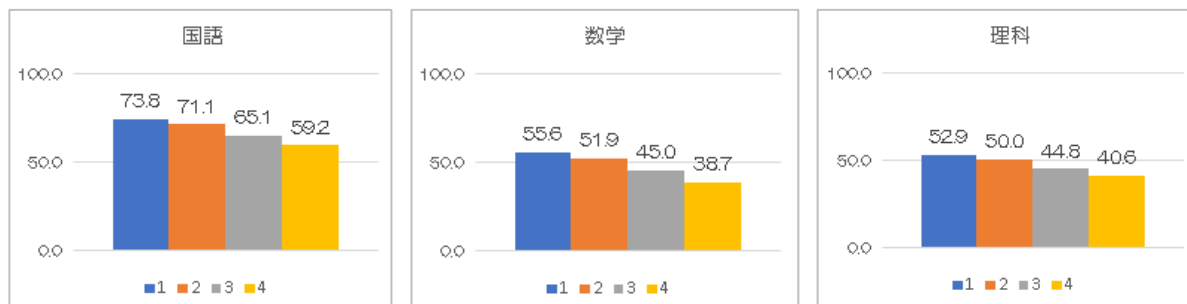
○以下と回答している生徒ほど、国語、数学、理科ともに正答率が高い傾向が見られた。

Q44：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



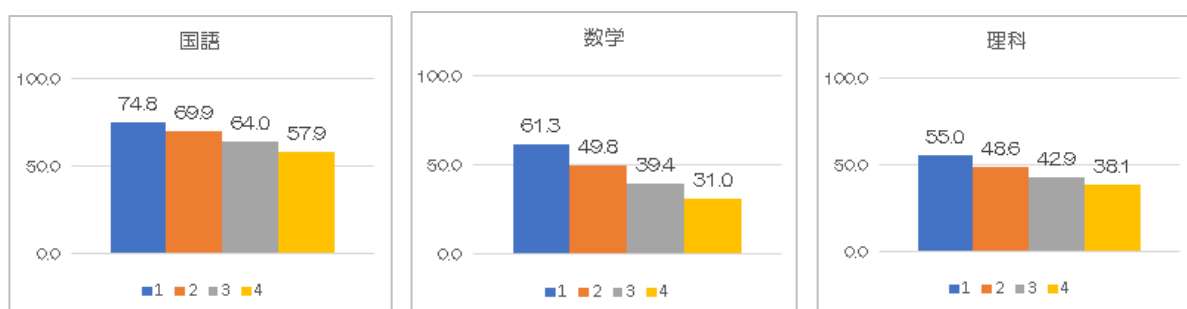
1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q45：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

Q58：数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

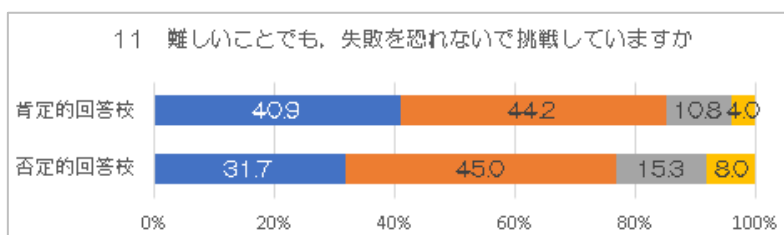
また、「11 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」、「15 人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「47 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」、「48 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」、「59 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」等は、上記6つの質問との相関が見られた。

学校質問紙と児童生徒質問紙のクロス分析

前ページ下部で示した児童生徒質問紙項目と、学校質問紙項目について分析したところ、特に中学校において特徴的な結果が見られた。

○自ら課題を設定し、身に付けたことを用いて、話し合い活動を行い、課題の解決に取り組んでいる学校では、「11 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対して肯定的に回答している生徒が多い。

例) 「学校質問紙29：授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」に対して、肯定的に回答した学校と否定的に回答した学校の「11 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の集計結果比較

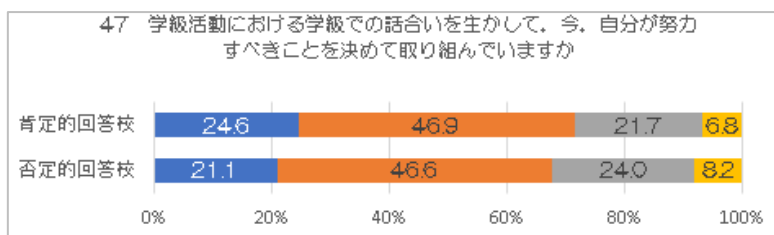


1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

「学校質問紙31：各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか」「学校質問紙33：総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」も同様の傾向

○研修が実施され、教科、総合、道徳等において指導の工夫がされている学校では、「47 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」に対して肯定的に回答している生徒が多い。

例) 「学校質問紙19：授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」に対して、肯定的に回答した学校と否定的に回答した学校の「47 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の集計結果比較



1 当てはまる / 2 どちらかといえば、当てはまる / 3 どちらかといえば、当てはまらない / 4 当てはまらない

「学校質問紙28：授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」「学校質問紙29：授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」「学校質問紙30：習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」「学校質問紙31：各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか」「学校質問紙32：教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか」「学校質問紙33：総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」も同様の傾向

2 令和4年度全国学力・学習状況調査

調査結果を踏まえた学力向上7つの提言

提言1 単元などの内容や時間のまとまりを意識した指導の充実

1 単位時間の授業は大切です。しかし、そこでの学びが児童生徒の中でつながらなければ、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚することができません。「質問項目 40：授業では、各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」、「質問項目 44：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目は、学力との相関が見られました。学習した内容について自ら振り返り、次の学習に生かしていくためには、教員自身1単位時間の授業計画だけでなく、単元などの内容や時間のまとまりの中で育成したい資質・能力を明確にした上で指導計画を立て、児童生徒の学びをつなげていくこと、変容を自覚させていくことが必要です。それはまた、教科の「見方・考え方」を働かせることにも結び付くはずで、これらの改善が、児童生徒に教科を学ぶ意義を実感させ、「学びに向かう力」を育むことにもつながります。

提言2 指導と評価の一体化の充実

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、どう評価したらいいのかという方法論が話の中心になっていないでしょうか。育成を目指す児童生徒像は明確でしょうか。学習評価は、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくこと、そして、その指導のもとで児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにするために行うものです。育成を目指す児童生徒像をしっかりとイメージし、現時点での児童生徒を冷静に分析し、指導を通して児童生徒がどう伸びたのか、どう変容したのかを見取り、一人一人にその成果を返していくとともに、教員が自らの指導を改善していくという認識が重要です。

提言3 認知能力と非認知能力の一体的な育成

認知能力と非認知能力は一体的に育成されるべきものです。非認知能力の定義は諸説あるので、その定義について議論することよりも、各校の教育目標と照らし合わせ、育成を目指す児童生徒像に則って「こういう力を伸ばそう」と決めることが必要です。そして、校内研修等を通じて全教職員で共通理解を行い、学校の教育活動全体を通して育成を目指していくことが大切です。

提言4 調査対象教科だけでなく、すべての教科及び領域での指導の充実

「質問項目 58：算数【数学】の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答していた児童生徒は、算数・数学だけでなく国語、理科でも平均正答率が高い傾向がありました。また、「質問項目 47：学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。」「質問項目 48：道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。」と回答している児童生徒は、学力と関連の見られた質問項目に肯定的に回答している傾向がありました。グループで話し合う、考えたことを文章に書く、他人にうまく伝わるよう考えながら説明する等について、各教科・領域等でどういう工夫ができるかを考えることが、どの教科にもプラスの効果を与えていると示唆されます。このとき、担任や各教科担当だけで考えるのではなく、学校全体で方針を持ち、全教職員で共通理解した上で指導することが大切です。

提言5 学んだことを生かし、自ら課題を設定し解決する課題解決型の学習の充実

「質問項目 45：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」も各教科の平均正答率と相関がみられます。自ら課題を設定し、解決していく課題解決型の学習を通して各教科で学んだことを実際に使いこなし、そこで得た学ぶ力を再び教科の学びへと生かしていく機会を充実させることが大切です。

提言6 生徒指導の機能を強化した学級経営

生徒指導の機能(自己決定の場・自己の存在感・共感的な人間関係)を活かした学級経営が大切であることは言うまでもありません。教員の児童生徒への適切な言葉かけによって、学級は落ち着きます。児童生徒一人一人が、学級が楽しい、安心できるという感覚を持つ中で、他者の意見を聞いて自らの考えを深めたり、相手に伝わるように工夫しながら発表をしたりといった学習活動を行っていくことが大切です。

提言7 実践的な校内研修、指導の振り返りと改善の充実

実践的な校内研修を行うこと、校内研修の質を向上させることを通して、学校としての「指導力」を組織的に向上させることが必要です。学校として何を大切にしているのかを全教職員で共通理解し、児童生徒の現状を正確に把握し、どうすればねらいに近付けるのか仮説を立て、全教職員がそれぞれの立場から一人一人の児童生徒に適切な指導・支援を行い、指導の成果について検証し、指導改善を行うことが重要です。

学校の教育活動について、教員の感覚と客観的データの両輪から児童生徒の伸びと変容を把握し、指導を振り返り、改善していく学校文化を醸成していくことが必要です。令和5年度から実施する「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」も最大限活用してください。